



Dr. Itaru Uchida

August 31, 1932 – September 28, 2024



1954-Graduated from Tokyo University of Fisheries
Keeper at Enoshima Aquarium
Research Assistant at Tokyo University of Fisheries

1966 –1989 Director of Himeji City Aquarium
1975 – Ph.D. in Agriculture, University of Tokyo
“Biological Resource Study of Pacific
Loggerhead Sea Turtles”

1992 – 2008 Director of
Port of Nagoya Public Aquarium

2008 Commendation by the Cabinet Office



- 田北 徹 1 北米の estuary にすむ Atlantic silverside
 梅津 武司 2 深海のペラゴス(軟)——開洋丸による核種分析用試料の採集
 麦谷 泰雄 10 魚類耳石の日周鱗
 奥谷 喬司 14 頭足類の生物学 ⑧ 中・深層性イカ類数科の概要(3)
 菊池 泰二 17 海産無脊椎動物の繁殖生態と生活史-IV 繁殖, 発生様式に関する理論的考察
 田中彌太郎 23 二枚貝類幼生の同定 ⑧ ケントリガイ・アサリ・ハマグリ
 内田 至 27 アカウミガメの擬態
 安楽 正照 28 プランクトン研究ノート ⑧ 環境調査とプランクトン(6)
 橋本 惇 33 《しんかい、2000》の調査研究に期待する
 今島 実 36 日本産多毛類の分類と生態 ⑧ シリス科の分類(4)
 糸野 洋 44 紅藻イギス科藻類の分類と分布 ① 各論(6) [最終回]
 林 健一 46 日本産エビ類の分類と生態 ③ タルマエビ科・コシエビ属(3)
 中原 紘之 51 褐藻類の生活史 ① 形態とその生態的意味
 諸喜田茂充 57 島嶼河川でのコエビ類の流程分布
 鳥海 三郎・福代 康夫 64 渦鞭毛藻類の形態と分類 ② 無性生殖と有性生殖
 谷口 順彦 69 ニベの生物学 ③ 種族分化
- 文献の窓 40 大学・研究所・博物館・水族館・水産試験場等・各種法人・研究書誌
 BOOK REVIEW 50 化石の意味——古生物学史挿話/小高 民夫
 New Journal 68 Fisheries Research/大方 昭弘
 海外研究誌=Contents 76 学術研究誌の最新号紹介

Published in Japanese, the academic journal *Aquabiology* offers comprehensive coverage of diverse disciplines such as marine biology, fisheries science, and environmental studies in Japan.

series of articles:
Introduction to Sea Turtle Studies
Notes on Sea Turtle Science,

海ガメ学ノート

②—クロウミガメ *Chelonia agassizi**

内田 至

「あいつは、ちょっと見ただけで全くちがった種類の海ガメだということを納得するよ。少し小振りで黒いし、腹甲でさえ色がついている……」と米国海洋漁業局のホノルル研究所のG・バラーズ氏はいった。

ガメ *Chelonia agassizi* について、彼の研究室で尋ねたときの意見であった。今までアオウミガメの一種として考えられていたものであったが一昨年(1982)の7月、Costa Rica の San Jose で開催された大西洋の海ガメのシンポジウム以来、急に種として昇格させる傾向が出てきた。

このシンポジウムは、今まで世界各地で別々な方法で行われていた海ガメの調査研究の手法、とくに基本となる計測法や種の査定法、現生種の特徴や近年にわかに行なわれるようになった航空機による産卵上陸数や、上陸種の推定や標識法などの統一を計った点で、画期的であった。そしてこのため、世界共通の海ガメの研究と保護調査のためのマニュアルを作成した(Pritchard *et al.*, 1983)。このマニュアルは恐らく今後、世界の海ガメの調査研究の指針となるもので、13人の現役の海ガメ研究者が協議の上で作成している。従って、このマニュアルの影響するところは極めて大きいものと思われる。

マニュアルの中で分類した現生種については、孵化直後の幼体や成体などがカラー写真で示され、種の査定に便利ように考えられている。そして、このマニュアルの中で初めて、今まで *Chelonia mydas agassizi* と亜種の位置にあったアオウミガメの一種を、*Chelonia agassizi* と独立した種として認めたのである。

Chelonia agassizi について

海ガメ類の中で、世界的に最も広汎な分布を示すアオウミガメについては、その研究史も古く、かつ知見の集積も海ガメ類の中で最も多い。従って、本属の亜種についてもさまざまな見解が発表されている。

海ガメ類の分類については、既に本誌② (Vol. 4-No. 5) で述べたので詳細は略すが(内田, 1982)、アオウミ

* *agassizi* と表わす場合もある

Itaru Uchida: Marine Chelonological notes
2-On the black turtle, *Chelonia agassizi* as a full species
姫路市立水族館

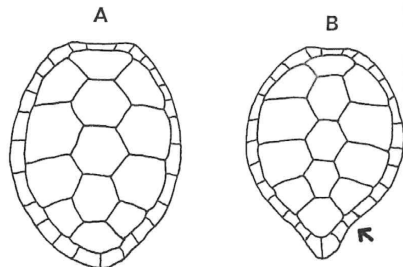


図1 アオウミガメとクロウミガメの背甲の形態比較
A: アオウミガメ, B: クロウミガメ
特にクロウミガメの後肢基部付近の凹みに注意。また、クロウミガメの甲は後方に向かいやや尖った形態を示す

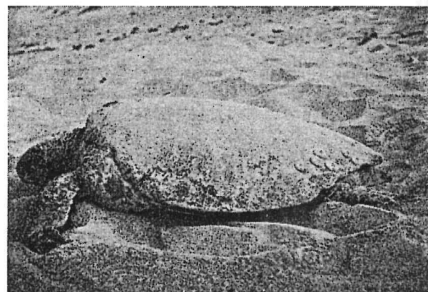


図2 クロウミガメ(メキシコ太平洋岸で Dr. Marquez, 撮影)

ガメ属 *Chelonia* には2種 (*C. mydas*, *C. depressa*) が知られていた。この中でアオウミガメ *C. mydas* については、古くからいくつかの亜種が提唱されており、Carr (1975) は、それらを4つの亜種に分けた。いま亜種名と主な分布域を Carr (1975) に従って示すと、次のようになる。

- (1) *C. m. agassizi*: Eastern Pacific, Galapagos, Hawaii, Marshall Is.
- (2) *C. m. japonica*: Western tropical Pacific, Indian Ocean
- (3) *C. m. mydas*: Ascension Island
- (4) *C. m. viridis*: Western Atlantic

しかし、これら亜種の取り扱い、研究者によって著しく異なり、少なからずの混乱を起こしていることも否めない事実である。特に最近の例では、Ernst and Barbour (1972) はその大著の中で、太平洋・インド洋産の亜種を、*C. m. agassizi* の一種に統一して論述を進めているし、古くは1962年、当時、ロスアンゼルス州立博物館のキュレーターであった D. Caldwell は、太平洋北東部とくにカリフォルニア半島からメキシコにかけて生息するアオウミガメを調査し、*C. mydas* Carri-

「あいつは、ちょっと見ただけで全くちがった種類の海ガメだということを納得するよ。少し小振りで黒いし、腹甲でさえ色がついている……」と米国海洋漁業局のホノルル研究所のG・バラーズ氏はいった。

Mr. G. Balazs of NOAA's Honolulu Laboratory said, "Just a quick look and you'll be convinced it's a completely different species of sea turtle. It's a bit smaller and darker, and even its plastron is colored."

Port of Nagoya Public Aquarium and the Icebreaker "Fuji"



Exhibit Content

North Building

A Journey Spanning 3.5 Billion Years –
Animals that have returned to the seas



Exhibit Content

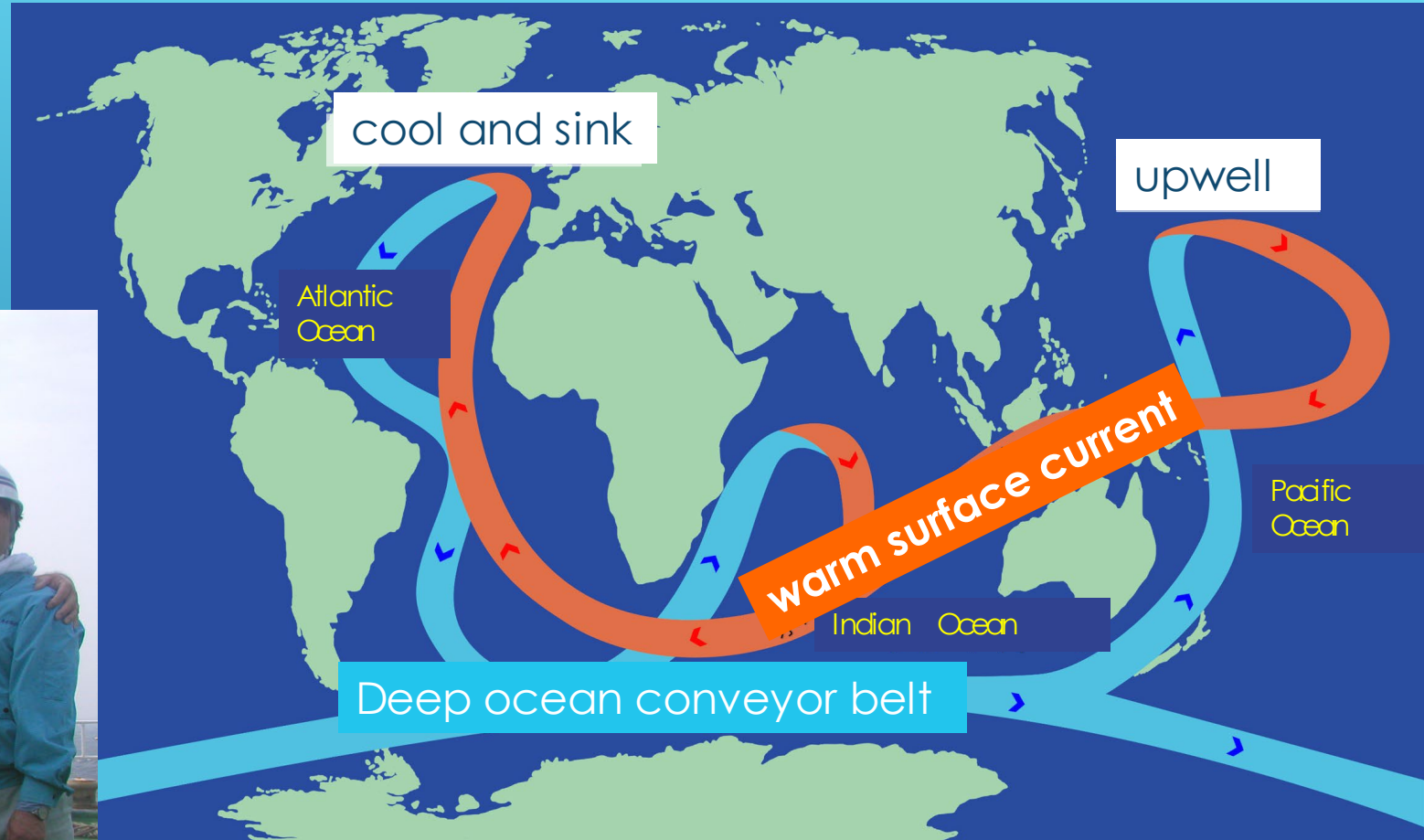
South Building

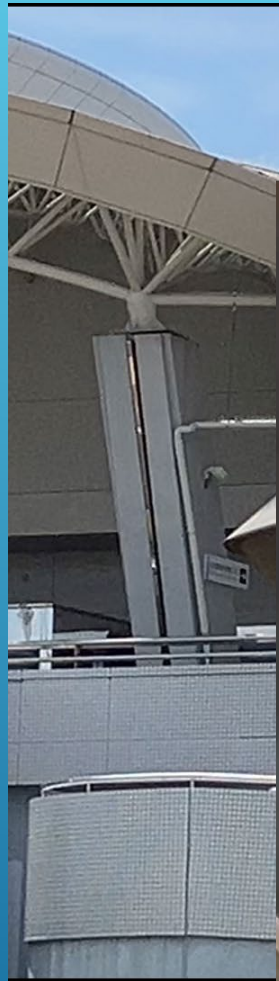


A Journey to the Antarctic



Global Conveyor Belt





広崎芳次 鈴木克美

吉田啓正



内田 至

中島将行

